

雁 金 文 七

帝キネ小阪映畫

脚色者

上島 量氏

監督者

山下 秀一氏

撮影者

塚越 成治氏

雁金文七

尾上 紋十氏郎

母 お秀

常盤 松代嬢

許婚お妙

泉 清子嬢

藝妓小作

津守 玉枝嬢

若藤角右工門

片岡 竜十郎氏

刻印千右工門

小島 陽二氏

雷の庄九郎

尾上 紋彌氏

菊石の桑吉

嵐 寛十郎氏

解説——「お七と傳吉」について山下秀一氏の監督製作した時代映畫である。
略筋——雁金文七は許婚のお妙を捨て、刺客の群に身を投じ、新町屋の花小作の家に入浸つてゐた。お妙は何時しか淀屋道太郎と親しい仲になつてゐた。刺客若藤角右工門は小作を我物にし、川尻の掘堀工事に人夫請負として角右工門と文七は任された。そこで若藤組の八夫等は不平をこめて雁金文七に走つた。之を聞いた角右工門の敵意は燃え文七を相手に大争闘が渦巻いた。遂に文七は角右工門一味を討ち果たし、小作と二人は死を選んだ。戀に狂つたお妙と道太郎も彼等一人の世界に去り行くのであつた。

